

目指す学校像	「自ら学び続ける生徒の育成」を目指した「真の学び舎としての学校」
--------	----------------------------------

重点目標	1 真の学力の向上をめざし、主体的・対話的で深い学びを可能にする学習指導の充実 2 心身ともに元気で豊かな生徒を育成する生徒支援の充実 3 「地域とともにある学校づくり」をめざしたコミュニティ・スクールの推進 4 教職員一人ひとりのよさや個性を活かした学校づくりの推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成 (8割以上)
成	B	概ね達成 (6割以上)
度	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和7年2月6日
1	<p>(現状)</p> <p>○令和5年度全国学力・学習状況調査では、国語・数学・英語の3教科全てが全国・県の平均正答率を上回っている。</p> <p>○令和5年度の学校評価生徒アンケート調査の結果では、「積極的な授業参加」に関する項目の肯定的回答率は91%、「授業の理解」に関する項目の肯定的回答率は80%であった。</p> <p>(課題)</p> <p>○令和5年度全国学力・学習状況調査の内容・領域を項目別で見ると、国語の「漢字を書く」「古典原文と現代語文章の対比」、数学の「図形」「データの活用」、英語の「書くこと」「読むこと」について全国・県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○学校での学習内容が家庭学習にどのように活かされるかが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報端末を活用した個別最適な学びの実現と適切な指導</li> <li>「大砂土中アクティブラーニングモデル」の授業実践</li> <li>STEAMS教育の実践による探究的学びの実現</li> </ul>	<p>①全国学力・学習状況調査の結果を基に生徒が自己採点し、自身の学習状況を把握できるようにする。</p> <p>②スタディサプリやデジタル教科書等のデジタル教材を活用し、学力を向上させる。</p> <p>①アクティブラーニング型授業の実践により、主体的・対話的に学ぶ力を育成する。</p> <p>②「STEAMS TIME」を総合的な学習の時間に位置付け、プログラミング的な思考を取り入れた探究的な学習を実施する。</p> <p>③探究学習プログラム「さいたまエンジン」の実践を通し、コミュニケーション力や創造力を育成する。</p>	<p>①教育課程の編成・実施状況</p> <p>②自己採点による生徒の学習状況の変容</p> <p>③ICT機器を活用した授業の推進状況</p> <p>④学校評価の関連項目の回答結果</p> <p>①教育課程の編成・実施状況</p> <p>②各教科等の授業状況</p> <p>③ICT機器を活用した授業の推進状況</p> <p>④学校評価の関連項目の回答結果</p>	<p>令和6年度の全国学力・学習状況調査では、国語・数学の2教科全てが全国の平均正答率を上回った。生徒が自己採点し、自身の課題について把握することができた。スタディサプリについては、使用割合を上げたい。</p> <p>学校評価生徒アンケート調査の結果、「学校の授業をよく理解できている」という割合は、約90%であった。しかし、主体的・対話的に学ぶ力の育成のためにアクティブラーニング型授業を実践し、理解が深まっている部分もあるが、確実な理解の定着には課題が見られる。また探究学習プログラム「さいたまエンジン」については、生徒の発想が活かされるよい取組であり、コミュニケーション力が身に付いた。</p>	A	<p>今年度は、全国平均を上回った結果であるが、生徒の学力の傾向について再度分析し、学力定着を目指す。また次年度は、スタディサプリを使用する時間を設定し、デジタル教材等を活用しながら、授業改善を図り、また家庭学習を促す。</p> <p>アクティブラーニング型の授業実践を通し、生徒に主体的・対話的に学ぶ力が身に付いたか否かは、経年変化を見ていく必要がある。</p> <p>学校評価生徒アンケート調査の結果、「学校はICTを活用した授業を行っている」と回答した生徒の割合は約94%であった。今後もICT機器を有効活用した授業を推進していくと同時にさらに理解が定着するように改善していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大変よく頑張っている。</li> <li>「真の学力」について具体的に説明が欲しい。</li> <li>アクティブラーニングと基礎基本の定着とを両立させることの難しさを感じる。</li> <li>スタディサプリをより効果的に活用できると良い。</li> <li>家庭学習の充実(習慣)を図る必要がある。</li> </ul>
2	<p>(現状)</p> <p>○令和5年度の学校評価アンケート調査の結果では、「安全で安心な学校生活」に関する項目の生徒の肯定的回答率は97%、保護者の肯定的回答率は92%であった。また「安全・安心への配慮」に関する項目の生徒の肯定的回答率は89%、保護者の肯定的回答率は86%であった。</p> <p>(課題)</p> <p>○生徒は2校の小学校から入学して来るが、割合として、ほぼ一小一中の環境下であり、構築された人間関係を意識する傾向がある。配慮を要する生徒をはじめ、生徒一人ひとりが発信するサインを素早く察知し、支援・相談体制をより一層確立することが課題である</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりへのきめ細かい生徒支援や教育相談体制の確立</li> <li>安全な生活の実現に向けた主体的教育活動の充実</li> </ul>	<p>①スクールダッシュボードを活用し、生徒一人ひとりの状況を素早く把握し、迅速に対応に当たる。</p> <p>②教育相談部会を中心に、不登校生徒や配慮の必要な生徒の情報を共有し、組織的に対応する。</p> <p>③「心と生活のアンケート」の結果に応じた面談を実施する。</p> <p>①いじめ撲滅強化月間を中心に、いじめ防止に関する取組を行う。</p> <p>②いじめ予防授業を実施する。</p> <p>③スクールロイヤーによる情報モラルに関する講義を実施する。</p> <p>④日頃より生徒一人ひとりに寄り添い、共感的な人間関係を構築する。</p>	<p>①生徒の心身の健康に関する把握状況</p> <p>②教育相談の状況</p> <p>③不登校生徒への支援の状況</p> <p>④学校評価の関連項目の回答結果</p> <p>①生徒支援の状況</p> <p>②いじめ撲滅に向けての取組状況</p> <p>③道徳・特別活動の授業の取組状況</p> <p>④学校評価の関連項目の回答結果</p>	<p>学校評価生徒アンケート調査の結果、「学校で安心して勉強できる」という割合は、約95%であった。毎学期初めに実施した「心と生活のアンケート」の結果を重視し、二者面談を全員行うなど、生徒一人ひとりに向き合う対応を行った。また、週1回行われる教育相談部会を通し、配慮の必要な生徒の情報共有を密に行ってきた。</p> <p>学校評価生徒アンケート調査の結果、「いじめのない明るい学校生活を送っている」という割合は、約93%であった。いじめ予防授業等の取組、また道徳や特別活動等の授業、その他、スクールロイヤーによる専門家からの講義により生徒の意識が高まったと思われる。</p>	A	<p>次年度も引き続き、生徒一人ひとりの心身の健康について意識を高めて把握をし、迅速な対応を組織的に行っていく。また不登校生徒の定期的な安否の確認を行うとともに支援の在り方については、その都度確認をし、対応していく。</p> <p>いじめの認知に至らなくても、生徒間の人間関係のトラブルの件数が多いのが現状である。道徳や特別活動の授業をはじめ、教科の授業の際には、生徒の反応や行動を注意深く見守りながら、教科指導に当たる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の教育相談体制が大変よく整っている。</li> <li>スクールロイヤー等の専門家による講義を実施することは、大変よい取組であった。</li> <li>子どもたちの実態を直接知るうえで、小学校教員と授業公開週間をとって連携を図ることは重要である。</li> </ul>
3	<p>(現状)</p> <p>○本校は創立77年目を迎え、保護者をはじめ、地域在住の方に卒業生が多く、伝統校として地域に認知されている。</p> <p>○学校運営協議会において、目指す生徒像について熟議を重ね、生徒を地域全体で育成していくことを共有している。</p> <p>(課題)</p> <p>○地域との交流活動について具体的な取組方法を考えていく。</p> <p>○本校の教育活動について工夫を重ねながら外部発信していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会を通じた家庭・地域との関係性の構築</li> <li>地域との連携を踏まえた教育活動の実践</li> </ul>	<p>①学校だよりやHP等を通して、生徒の活動状況を家庭や地域に発信する。</p> <p>②学校行事等について保護者をはじめ、地域に積極的に参加を呼びかける。</p> <p>③年間3回開催予定の学校運営協議会における熟議を充実したものとする。</p> <p>①地域の活動に積極的に参加する。</p> <p>②地域の方を講師とし、体験出前講座を実施する。</p> <p>③民生委員連絡会を実施し、地域の状況を共有する。</p>	<p>①学校運営協議会の開催状況</p> <p>②保護者・地域との連携状況</p> <p>③学校評価の関連項目の回答結果</p> <p>①関連機関との連携状況</p> <p>②学校評価の関連項目の回答結果</p>	<p>学校だよりやHPを通して、教育活動の様子を家庭や地域に発信することができた。学校行事においても、PTA役員を中心とする保護者ボランティアの協力を仰ぎながら、盛大に実施することができた。また、学校運営協議会を3回実施する中、学校の課題を提示し、熟議を充実させることができた。</p> <p>体験出前講座を実施し、地域の方との関わりを深めるとともに、各講座への生徒の意欲・関心が高まった。また、民生委員連絡会を通し、情報共有することができた。</p>	A	<p>次年度も引き続き、生徒の活動の様子を積極的に外部発信していく。同時に授業参観の設定時期を考え、保護者をはじめ、地域にも公開の機会を広めていきたい。</p> <p>生徒の地域への活動参加については、課題が残る。地域への参加の幅をどう広げていくか、今後の焦点となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の状況を考えると、現段階では、学校はよくやっている。</li> <li>子どもたちの地域参加については課題があるが、可能な範囲で地域からも呼び掛けを行ってきたい。</li> <li>公民館などの施設間連携を図るとよい。</li> </ul>
4	<p>(現状)</p> <p>○「自ら学び続ける生徒の育成」を研究課題とし、教職員の指導力・学校の組織力向上のための研修を計画的に実施している。特に昨年度に引き続き、「道徳教育」についてさらに研究を進めている。</p> <p>○令和5年度の学校評価教職員アンケート調査の結果では、ICT機器を活用して授業を行った教職員の割合は96%であった。</p> <p>(課題)</p> <p>○ICT機器の授業活用については全教員の共通理解の下、実施することが課題である。</p> <p>○経験年数の少ない教員への指導方法の継承が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化教育の充実</li> <li>教職員の特性を活かした指導力の向上と組織力の確立</li> </ul>	<p>①エバンジェリストを中心に、授業におけるICT機器の効果的な活用方法について計画的に校内研修を実施する。</p> <p>②研究推進委員会を中心に、研究課題に向けた校内研修を計画的・組織的に実施する。</p> <p>③道徳の授業を充実させる。</p> <p>④指導主事を招聘した研修会を年間2回以上実施する。</p> <p>⑤教職員の資質向上に関わる校内研修等を年間4回以上実施する。</p>	<p>①ICT機器を活用した授業の推進状況</p> <p>②指導主事招聘の研修による課題解決に向けての取組状況</p> <p>③教職員の資質向上に関わる研修状況</p> <p>④学校評価の関連項目の回答結果</p>	<p>学校評価教職員アンケート調査の「ICT機器の授業での活用」の割合は、約90%であった。またICT機器を有効活用した授業の実践においては、エバンジェリストを中心に効果的な活用方法について計画的に校内研修を実施し、実用に繋がった。今後もデジタルとアナログを併用しながら、授業実践を行っていく。</p> <p>研修に関しては、研究推進委員会を中心に、道徳教育を推進し、次年度への土台作りができた。加えて指導主事を招聘した研修会を2回(道徳・生徒支援)、教職員の資質向上に関わる校内研修を4回実施し、教育公務員としての意識を高めることができた。</p>	A	<p>道徳教育に関しては、令和8年度の『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の充実』の研究発表に向けて、その基礎として、さらに推進していく。また教職員の資質向上についても校内研修等を計画的に行い、教育公務員としての意識を学校全体で高めていく。</p> <p>ICT機器を活用した授業実践については、引き続き推進をし、デジタルの良さやアナログの良さを使い分けながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体化教育の充実を図っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の育成について計画的に取り組んでいる。</li> <li>1小・1中に近い関係の状況で、教職員間の研修等を工夫して取り組むことができていく。</li> <li>ICTに偏りすぎない視点は重要である。</li> </ul>

